

いま、中学生が訴えたいこと

青少年の非行の芽をつみ、心豊かでたくましい青少年を育てるためには、何よりも健全な家庭環境が大切です。6月29日(土)に文化センターで「東浦町非行防止と青少年健全育成町民大会」が開催され、青少年対策の重点目標や事業計画の発表が行われました。また、「いま、中学生が訴えたいこと」をテーマにした中学生の意見発表がありました。発表された中学生の意見を紹介します。

●問い合わせ 生涯学習課(文化センター内) ☎ 83-9567



「生徒会活動で 得たもの」

東浦中学校 3年
黒野 礼音さん

先日、東浦町の町議会選挙がありました。皆さんは投票に行かれましたでしょうか。立候補をされた方々はいろいろな場所で演説をしたり、車に乗って地域を回ったりされていました。私たち町民が気持ちよく暮らせるためになんかばっていらっちゃって、すごいと思いました。私も小学校や中学校では児童会や生徒会の役員をしていましたから選挙の経験があります。選挙に出るときの勇気や当選をするための努力がいかに大きいか、そ

して、大変なことかということをも身をもって知っていますから、候補者のお一人お一人を応援をしたくなりました。

私は小学校の頃、児童会の役員をしていました。あいさつ運動では毎週校門に立って登校してくるみんなにあいさつをする、大きな声できちんと返してくれました。とてもうれしかったです。また、立候補するとき、『学年問わずみんなが仲良くなってほしい』ということを公約に掲げて当選しましたので、ぜひ実践したいと思いました。それにはどうすればよいか自分で考え、そして、児童会の役員みんなで話し合いを重ねました。私の公約が実現したとき、みんなの役に立って嬉しかったという気持ちで、中学生になって中学生会で活動したいという思いにつながりました。

は素足に白い靴下を履いて寒さを我慢していました。今の時代に合った黒いタイツを着用したいという女子の声を、私たち生徒会は取り上げました。校則を変えたいことは並大抵のことではありません。まず、全校生徒にアンケートをとったり、先生方に意見を伺ったりしました。また、生徒会の役員全員が給食を早く食べて時間を作り、ランチミーティングを何回もして意見交換をしました。そして、クラス代表の代議員と相談し、それをクラスに持ち帰って、クラス内で話し合い、男子の生徒にも説明し理解を求めました。

しかし、なかなか話し合いが進まず、そんなときは生徒会役員や代議員の人だけではなく皆さんの人からも意見をもらいました。快適に規則正しい学校生活を送るために、着用する際の決まりやルールも話し合いで決めました。そして、約三か月間程かかって、ようやく黒タイツが校則として認められました。一月になって、とても寒い朝、黒タイツを履いている人たちが廊下を歩いている姿を見たとき「がんばってよかった」という熱い思いが胸にこみ上げてきました。それから、その他のことも全校生徒にアンケートを取った

り、意見を聞いたりしながら中学生のみんなが少しでも過しやすい学校にするために生徒会役員として活動しました。

児童会や生徒会活動では、地道に粘り強く話し合っていてこそ、目標は達成できるということを学びました。これから先、どうすることもできない困難なことに遭遇しても、みんなに理解を求め、話し合い意見を出し合って解決できる糸口を探す努力をしようと思っています。どんなに大きなものでも動かせるような気がしています。私たちはこれからの社会を背負って生きていきます。自分の意志をしっかりともち、よりよい社会になるよう節度ある言動や行動を心がけて生きていきたいと考えています。





「技術の 発達と私達」

北部中学校 3年
澤 いずみさん

「スマホがないと生きていけない」

誰もがそんな風に思ったことがあると思います。スマホとは、スマートフォン略で、二〇〇七年に初代 iPhone が発売され、十二年経った今でも私達の生活に欠かせないものです。スマホはとても便利なもので、電話やメールはもちろんのこと、ゲームやナビ、電車の時刻を調べるなど様々なことがたった一台の機械でこなせます。最近では、家電の操作や家の鍵を開け閉めできたり、クレジットカード機能を搭載して、お金がなくてもスマホで買い物したりできます。また、大人が持つもの

と感じていたものが、今では「格安スマホ」などの登場により、中学生でも当たり前のように持っているようになりました。二〇一八年のスマホの普及率は十三歳から四十歳までは九十%を超えており、私達の生活になくてはならないものとなりました。しかし、本当に便利だけなのでしょうか。スマホには、悪魔のような恐ろしいものが潜んでいると思います。

みなさんは「スマホを落とすだけなのに」という小説を知っていますか。昨年、映画化された大人気の小説です。スマホは持っている人の分身のようなものです。もし、それを落としたり、そのまま誰かに拾われてしまったら、どうなるでしょうか。スマホは開けると、パスワードがかかっているから大丈夫だと思うかもしれませんが、しかし、ホーム画面が自分や友達の写真だったとき、TwitterなどのSNSで検索され、パスワードが簡単に分かってしまつてもいいかもしれません。自分の顔や住所や電話番号などの個人情報だけでなく、今自分がどこで誰と何をしているのかが全て流出してしまう可能性があります。スマホで何もかもできてしまつたこの時代。スマホで家の鍵を

開け、様々な物が盗られてしまつたり、家電をイタズラで操作されて真夏日に暖房がついていたり、クレジットカードで変な買い物を買ってしまったら、と考えるだけで恐ろしくなるようなことばかりです。スマホの怖いところはそこだと思います。小説を読むとスマホの大切さと同時に頼りすぎてしまつことへの危険もわかってきます。

それではどうしたら自分の身が危険にさらされないのか。二つの方法があると思います。まず一つ目は、情報の流出に気を付けることです。例えば、ホーム画面を人の写真にしてしまつと、画面を見た時、それが自分や友達の写真だったらすぐに顔が分かってしまいます。また、ホーム画面以上に大切なのはパスワードです。まず自分の誕生日のような安直なものはやめましょう。好きなアーティスト関係もホーム画面に出しているのなら危険です。すぐに特定されてしまいます。二つ目はスマホに頼りすぎないことです。スマホには便利なきがたくさんありますが、それを信用しすぎるとかえってそれかもしれません。人間がなにもかも面倒くさがつて、全てを機械に託したら、いつか人間が飲

み込まれ、立場が逆になり、人間が機械に使われてしまつ日が来るでしょう。そんなことにならないようにしていかなければいけないと思います。

スマホの表の顔と裏の顔。このまま「便利」だけを追求していけば、そのうち大きな落とし穴に落ちてしまいます。「便利だから」そんな言葉の裏に潜んでいる悪魔に飲み込まれてしまつてもいいかもしれません。情報が一度流出したら、もう消すことができなくなつてしまつた時代。これは技術が発達したからこそ起きていくことだと思います。私達の生活がどんどん便利になつていく一方で、サイバーテロといった現代らしい犯罪やSNS上のいじめなどの社会問題が発生しています。様々な問題が溢れている中、私達中学生はそれをただポーツと見ているだけでよいのでしょうか。いいえ、よくありません。私達中学生ができること。それは「スマホがなくても生きていける」社会を作っていくこと。そのためには私達がスマホに依存してはならないのです。

これから生きる私達と発達し続ける技術。お互いに助け合うことができればよりよい関係、よりよい未来を作り出すことができるでしょう。

令和元年度 社会を 明るくする運動 優秀作品

優秀作品に選ばれた習字が会場に展示され、表彰式が行われました。
(敬称略)

●問い合わせ ふくし課 内線 124



学校名	習 字	
	5年	6年
森岡小	おおた ゆいこ 太田 結子	しみず 那奈 清水 那奈
緒川小	しみず ここな 清水 心菜	はやし みほ 林 美帆
卯ノ里小	なかだ なつき 仲田 菜月	たなか わかな 田中 和佳奈
片葩小	はぎわら ななみ 萩原 七実	やまもと ゆな 山本 結愛
石浜西小	ちさき ちもか 知崎 百華	おざき まなみ 尾崎 愛実
生路小	かわかみ るな 河上 留奈	うすい ゆいか 碓井 唯華
藤江小	かとう さな 加藤 咲奈	すずき みか 鈴木 美花



「言葉の人権」

西部中学校 3年
吉盛 美海さん

私たちが普段、何気なく使っている言葉がどれだけの影響力をもっているのか、考えたことはありませんか。

例えば、自分が落ち込んでいるとき、家族や友達から「大丈夫だよ。元気出して。」などと励ましの言葉をもらうと、少し気が楽になったような気がします。あるいは、いいことがあって喜んでいるとき、「ハイテンション過ぎるんじゃない？」と言われると、何だか楽しい気持ちにな水を差されたような気持ちにな

ることもあります。このように言葉は、たった一言で相手の心を動かすことができちゃうのです。

そうだとしたら、発する言葉一つ一つに、言葉を発した人がしっかりと責任をもつべきではないでしょうか。

そんなことは当たり前、と思う人もいるかもしれませんが、それが当たり前ではない世の中になってきている気がするのです。

インターネットが普及している今、世界中のさまざまな人がネット上にいろいろな書き込みをしています。もちろん、自分とは違う多様な考えを知ることが、大切なことです。ときに勉強になったり、元気をもらえたりもします。しかし、よいことばかりではありません。ツイッターなどのSNSに他人の悪口を書き込む人や、匿名であることを悪用し、ありもしないウワサを流す人もいます。きつと多くの人は、そのときは軽い気持ちで書き込んだのかもしれませんが、けれど、よく考えてみれば、その言葉によって傷つく人や、後悔する自分がいるかもしれないことがわかると思っています。

いじめもまた、同じだと思います。発した方は、それほどの

悪意はなく軽いからかこの言葉だったとしても、言われ続けた方はどうでしょうか。それが苦痛で自らの命を絶っている人もいます。

では、なぜこんな残酷なことが起き続けるのでしょうか。自分の命に替えて訴えている人がいるのに、なぜ悪意のある発言や書き込みが止むことがないのでしょうか。

それはきつと単純なことで、一人一人が、自分の発する言葉に対して無責任だからなのではないかと思えます。

言葉を甘く見すぎてはいませんか。

悪意のある言葉は、相手を傷つけるだけでなく、自分の心までも、傷つけ込んでいきます。

試しに、「大嫌い」と「大好き」という二つの言葉を口にしてみてください。どちらが笑顔になれる気がしますか。「大好き」の方が口角が上がる気がしませんか。

「大好き」も「大嫌い」もどちらも「イ」で終わる口角の上がりやすい言葉です。でも「大好き」の方が明るく笑顔になれるような気がしませんか。言葉の不思議です。

腹が立っているとき、自分の言いたいことをストレートに言

えれば、一瞬はスカッとすることもできません。でも、一度そこで止まって、想像してみてください。あなたがその言葉を発したことで、この先に起こるであろうことを。言われた側の気持ちだけでなく、その言葉を発しているあなたの姿を。それは、美しいものですか。

自分のストレスを解消するために、自分の怒りを他人にまき散らすことは、相手を傷つけているようで、実は、自分を傷つけることになるかもしれないと思っています。

どんな言葉が相手を傷つけるか、そうでないのかを判断することはとても難しいと思います。相手との関係やどんなときに発した言葉かなど、そのときの状況がまちまちだからです。けれど、少なくとも、言葉を発するとき、相手の気持ちや状況を考えられる想像力や、その言葉を口にするこへの責任感を持ちたいと思います。

東浦町運行バス

うらら
乗車体験(夏休み)
キャンペーン



9/1回
まで

小・中学生は1乗車10円

問 防災交通課 内線 348

登録しましたか?

ちたまる
安全安心
メルマガ

問 防災交通課
内線235

メルマガにご登録された方へ地震や風水害に関する情報や東浦町の防災・防犯情報などを配信するサービスです。

登録すると、次のようなメールが届きます。

- ・緊急地震速報
- ・災害情報(知多地域の警報)
- ・防災情報(避難勧告など)
- ・半田警察署からの防犯情報

